

承認したことがわかった。それは問題の核心を完全に無視しているため、何の実も結ばず、結ぶはずもないのだ。

しかしもちろん一九四八年の物語は、少しも複雑ではない。したがって私は、長年さまざまな理由でパレスチナの問題に関わり、解決の道を探ってきた人々のためだけでなく、この分野の初心者のためにも本書を書いた。イスラエルが否定し、世界に忘れさせたがったのは、パレスチナ民族浄化という単純だが恐ろしい物語であり、人道に対する罪なのである。これを忘却から救うのはわれわれの責務であり、歴史叙述の再構築というひじょうに遠大な作業や専門家の責務におさまらない。道徳的な決断であり、少しでも和解のチャンスを見、そして引き裂かれたパレスチナとイスラエルの地に平和が根づくよう望むのであれば、踏み出さなくてはならない第一歩だと私は考える。

原註

- (一) Central Zionist Archives, minutes of the meeting of Jewish Agency Executive, 12 June 1938.
- (二) だが、社会主義への連帯を示すために正面を赤く塗ったと考えている人もいる。
- (三) 歴史家メイール・パイルは、この指令は、過問後に出たと主張している。Meir Pail, *From Haganah to the IDF*, p. 307.
- (四) 会合中の文書は、IDF Archives, GHQ/Operations branch, 10 March 1948, File 922175/595 および Haganah Archives, 73/94 に要約されている。Haganah Archives, 80/50/18 所収の Mapai center meeting, 4 April 1948 でイスラエル・ガリーリが報告している。本書の各章で説明するように、いくつもの文書を寄せ集め再構築した結果、この集団の構成や討議内容を明らかにできた。第4章では、三月一〇日付の指令や、この計画が最終決定される以前の会合についても記した。この会合の数週間前に採用されたダレット計画を同様に解釈したもの

sapientia
サピエンティア 50

The Ethnic Cleansing of Palestine

パレスチナの民族浄化

イスラエル建国の暴力

Ilan Pappé

イラン・パペ [著]

田浪亜央江・早尾貴紀 [訳]

横浜市立大学
後援会
寄贈図書

法政大学出版局